

## 世界初の難脱粒性・難穂発芽性を併せ持つ ソバ新品種「はるかみどり」

ソバ「はるかみどり」は、脱粒しにくく、かつ穂発芽がしにくい新品種です。脱粒および穂発芽はソバの収量と品質を大きく左右する要因であり、本品種の導入により安定した生産が期待されます。関東以南では春まき・夏まきの両作型に適性があり、2期作も可能です。

### ☆ 技術の概要

1. 難脱粒性を有し、主要な品種（「常陸秋そば」等）と比べ自然脱粒が少なく、収穫が2週間程度遅れてもコンバイン収量の減少を軽減できます（図）。
2. 難穂発芽性が既存品種の中では最も強いため、収穫時期が梅雨と重なる春まき栽培で問題となる穂発芽の発生を抑制できます。
3. ソバ麵の食味は、実需者の評価において主要品種と比較して同等以上と評価されました。

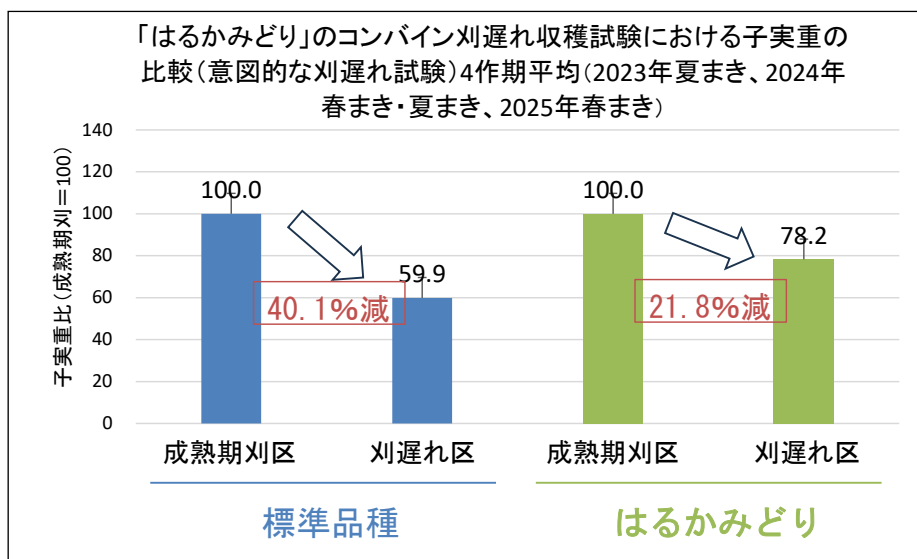


図 「はるかみどり」のコンバイン収穫試験結果(意図的な刈遅れ試験)

「成熟期」（種子の8割が黒化した時期=成熟期刈区）および「成熟期の2週間後」（=刈遅れ区）にコンバイン収穫を行い、成熟期区の反収を100とした場合の刈遅れ区の減収割合を示す。春まき栽培の標準品種は「NARO-FE-1」、夏まき栽培は「常陸秋そば」とした。

### ☆ 活用面での留意点

春まき栽培で収穫した種子を、直後の夏まき栽培に使用すると発芽率が低くなることがあるため、使用は避けてください。脱粒、穂発芽がしにくい品種ではありますが、刈遅れによりリスクが高まるため、適期での収穫につとめる必要があります。

(参考) [https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/karc/170362.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/170362.html)